

海外農林業情報 No.56

米国内での TPP 批准に向けた動きと TTIP 交渉の状況

米国内では大統領選挙に向けて政治的な動きが激しく、3月1日のスーパーチューズデーの結果、共和党ではトランプ候補、民主党ではクリントン候補がリードしているとされています。TPP に関しては、両者ともに反対という立場であり、特にトランプ候補は全面的に反対と表明しています。クリントン候補も、労働組合の支援を求める立場から、自分の貿易政策の原則である雇用の増大という点から見て、現在の TPP は不十分であるという批判をしているようです。

しかしながら、オバマ大統領は、TPP にはすでに署名しており、その関連法案を早急に議会に提出するとしており、今後の TPP の取扱いは議会の任務となります。議会では、共和党議員に貿易自由化の推進派が多く、一方で民主党は組合の影響が強いため反対が多いとされていますが、今年いっぱい任期のある現在の議会では、共和党が過半数を占めていることもあり、オバマ政権は楽観的に見ているようです。

一方、TPP とあわせて、オバマ政権としては、世界の新しい貿易ルール策定のリーダーシップをとる上で、TTIP を進めることが重要と見ているようです。その TTIP については、米国と EU との交渉会議がブリュッセルで2月22日から26日に開催され、結果について USTR からステートメント（その中では T-TIP と略称しています）が発表されました。

TTIP については、米・EU とも 97%の関税撤廃スケジュールが交換されておりますが、EU 側は、牛肉、乳製品、肉類を中心に、例外扱いを求めているようです。その他の市場アクセスに関して、サービスと政府調達については、まだスケジュールの交換には至っていないようです。特に、政府調達に関して、米国の州政府の取り扱いが決まらないようです。

ルールについては、TPP で合意された各種ルールが基本となるようですが、農業分野では、遺伝子組換え農産物の取扱い、ホルモン肥育の肉類、鶏肉の特定化学物質による洗浄の問題および地理的表示（GI）に問題があると言われております。また、SPS に関しては、早期通報、協議システムを導入する方向のようです。さらに、TTIP の特長として、TTP にはない、規格の相互認証と新規規格の設定に関するルール作りが進められているようです。

いずれにせよ複雑な問題が多々あり、オバマ政権側としては今年中の合意を目指しているようですが、EU 側だけでなく、米国内にも今年中には無理ではないかという意見があり、米国の次期政権の下での交渉となるのではないかと思います。

文責：西野 俊一郎

<参考リンク>

U.S. Press Statement at the Close of the T-TIP Round in Brussels (USTR、英語)

<https://ustr.gov/about-us/policy-offices/press-office/speechestranscripts/2016/February/US-Press-Statement-TTIP-Round-Brussels>

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空（から）メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。 E-mail アドレス：deskb@jaicaf.or.jp
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後2週間以内に届かない場合は、お手数ですが03-5772-7880（担当：西野・森）までお電話下さいますようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

発行：(公社)国際農林業協働協会(JAICAF)

〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目10-39 赤坂KSAビル3階